

日本学術会議 2018.12.13
人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会

捕獲者認証制度の試み

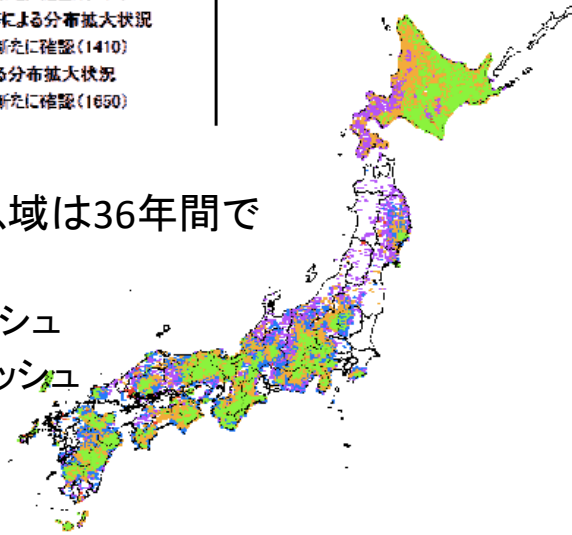
～シカ等の持続的な資源利用にむけて～

酪農学園大学 環境共生学類
狩猟管理学研究室 伊吾田宏正
(野生動物学コースコーディネーター)

分布

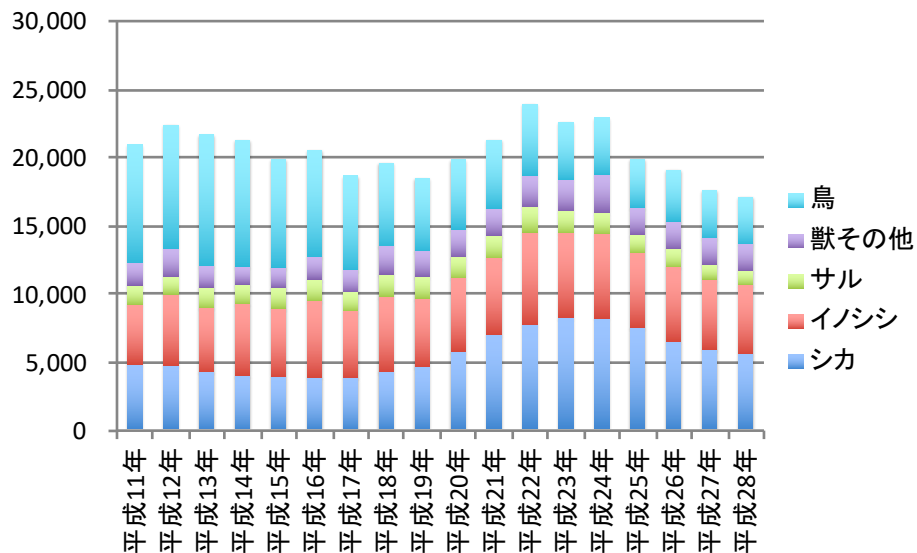
ニホンジカ分布域(メッシュ数)
自然環境保全基礎調査
■ 1978年のみ確認(70)
■ 1978年と2003年の両方で確認(3826)
■ 2003年に新たに確認(5407)
捕獲位置情報等による分布拡大状況
■ 2011年に新たに確認(1410)
目撃情報等による分布拡大状況
■ 2014年に新たに確認(1650)

- 全国のシカの生息域は36年間で2.5倍に増加
 - 1978年 4,220メッシュ
 - 2014年 10,393メッシュ
 - 全メッシュの6割



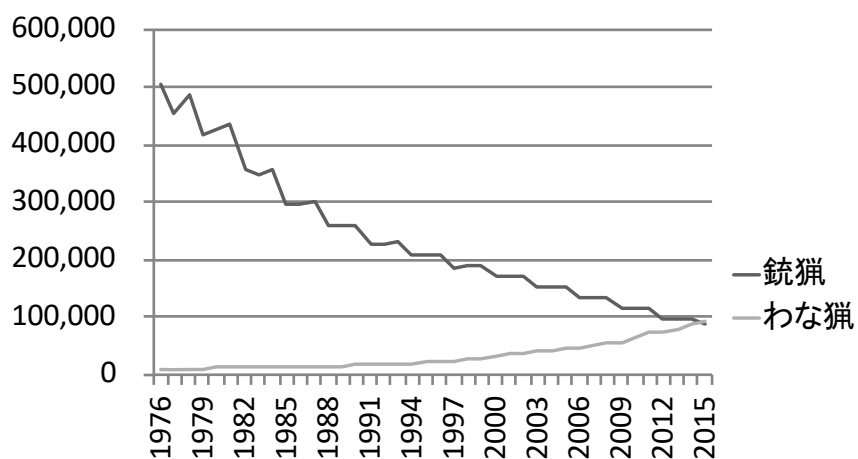
全国の鳥獣被害額の推移(百万円)

シカは56.3億円(うちエゾシカ68%)

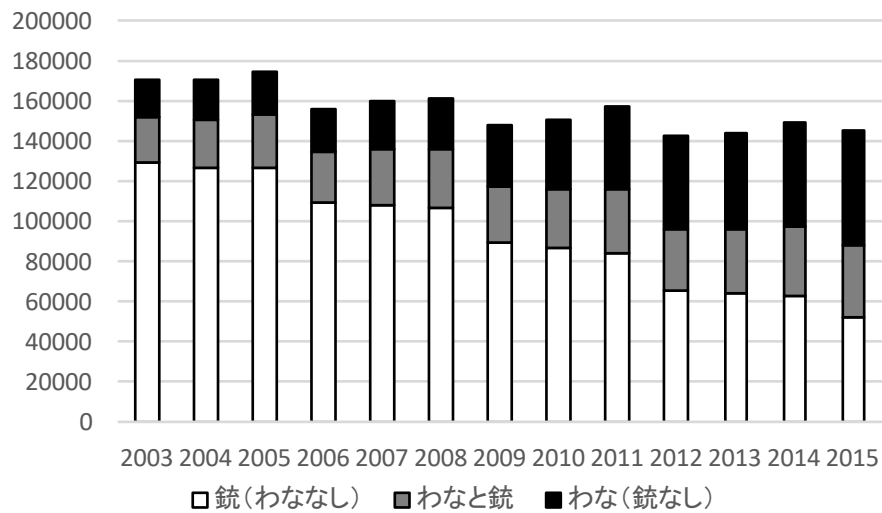


全国の狩猟免許発行数

H27年度 第1種銃猟88,592 わな猟92,883



全国の種別狩猟免許交付状況



一般狩猟者の活用

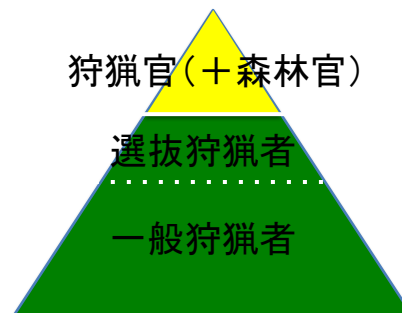
- 一般狩猟者はそもそも趣味で狩猟する人達
- スキルやマナーの幅は広い
 - 訓練していないので当たり前
- 危険も伴う管理捕獲に従事する義務はない





ドイツバイエルン州狩猟官 シュタッドラー氏の事例

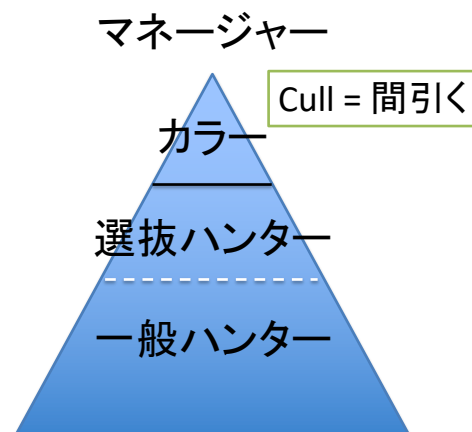
- 35 km²の管区を担当
- 12名の選抜狩猟者と100名以上の一般狩猟者と連携して有蹄類を「収獲」
- 年間捕獲数（単独）
 - ノロジカ130頭（約40頭）
 - アカシカ20頭（約10頭）
 - シャモア20頭（約10頭）



専門的捕獲技術者の必要性

（鈴木 2013）

- 一般狩猟者（ハンター）と専門的捕獲技術者（カラー）は区別すべき
- 狩猟者のスキルやモチベーションに応じて、カラーと連携して管理捕獲に協力頂ける選抜ハンターを確保する
- 管理計画は野生動物専門官（マネージャー）が統括する



エゾシカ管理のグランドデザイン

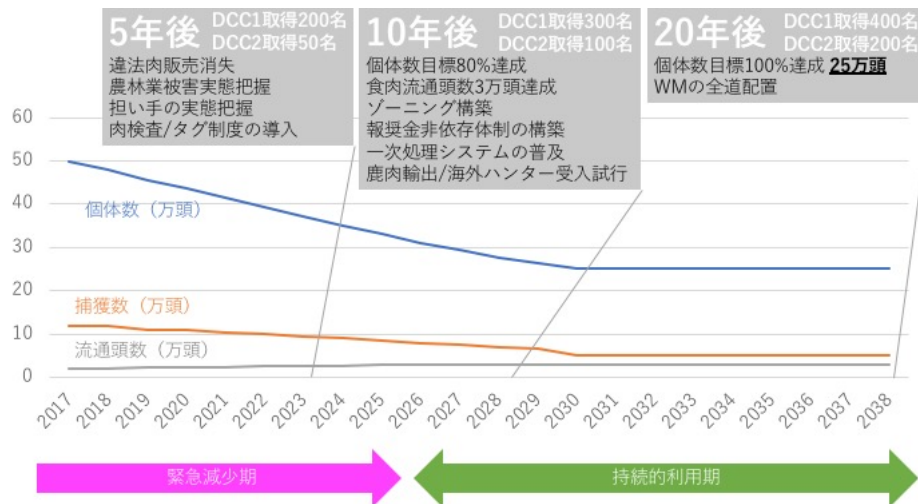
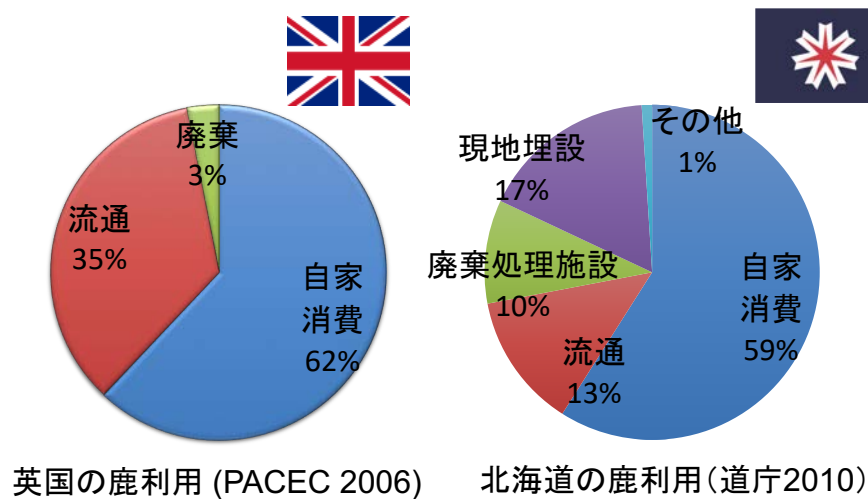


図2. 理想的な未来像とロードマップ

英国と北海道のシカ利用状況





◎獣肉検査資格者(Trained person) による個体の検査



NF007740		NF00774030404010026015		12/Aug/2013
Burley	Male	26.0	kg	12/Aug/2013
Fallow		26.0	kg	09:24
NET WEIGHT				12/Aug/2013
WEIGHTED WEIGHT				09:58
DATE SHOT				
TIME SHOT				

種・性別・
捕獲日時・
場所・体重

- 捕獲前に動物が変な行動をしていなかったか
- 内臓や頭、四肢に異常は見られないか
- 届出伝染病を疑われる状態はないか

食肉として適しているか否か





DMQ
Deer Management Qualifications Ltd
Setting the standard for wild deer management

[HOME](#) [LINKS](#) [SITEMAP](#)



英国シカ捕獲認証 DSC

- ✓ Deer Stalking Certificate
- ✓ ねらい: 受験者のシカ管理能力を評価する
合法性・安全性・人道性・食肉衛生
→銃所持・鹿肉販売・就職に有利
- ✓ DSC1 知識+技能(射撃)
講習+試験>4日間
- ✓ DSC2 人道的捕獲と衛生的解体
3頭の捕獲機会を評価

**EU獣肉検査資格
を含む**

15

DCC制度の創設



- Deer Culling Certificate シカ捕獲認証
- イギリスのDSCをモデルに構築
- 後援: 英国狩猟協会・「野生生物と社会」学会
- 2015年度スタート

運営組織 一社)エゾシカ協会DCC委員会
 酪農学園大学・森林総研北海道・道総研・
 西興部村猟区・EnVision環境保全事務所

DCC制度の概要



- 教育理念 シカ管理の
合法性・安全性・人道性・食肉衛生
- シカ管理の総合的なスキルを講習し検定する。
- DCC1(知識) 1週間の講習と試験
- DCC2(技術) 2頭のシカを適切に捕獲・処理
射撃技術・小論文

EU獣肉検査資格と同じ水準



DCC1カリキュラム

科目 講習時間(分)

関連法令	150
文化・歴史	90
生態	180
調査・解析	270
シカによる影響	180
管理計画	280
捕獲	360
銃	180
病気	180
食肉衛生	270
安全(実習)	140
解体(実習)	210
合計	約42時間

DCC1試験

- 識別試験：性別年齢クラス等
- 筆記試験（一般）
- 筆記試験（食肉衛生）
- 安全管理試験：モデルガンによる銃の取り扱い

DCC2

- DCC1の知識を実際の捕獲（2頭のシカ）で実践できるかを、現地審査者に示す

4年間の実績



- 4年間でDCC1を10回開催
- のべ119名（うち女性32）が受講
- 103名が取得（取得率86.6%）
- DCC2はエントリー4名中2名が取得
- DCCネットワーク：受講者と講師の情報交換研修会（9回開催）によるフォローアップ
 - 鹿肉調理・射撃セミナー・ヒグマ管理研修等
- 2018年よりDCCと本学野生動物学コースのカリキュラム連携開始

全国展開を準備中

- シカの管理・捕獲の原則は各地域で同じ
- 各地の状況の各論を加えて、全国展開が可能
- まずは本州展開を準備中
- 2018年に農水省鳥獣被害対策基盤支援事業「捕獲者研修制度(食肉衛生的な処理方法)」との連携を検討中



図3. 受講者の活動地域



総合的な育成プログラム

- 現場では多様な種への対応が求められている
- シカで基礎を作ってイノシシ・クマ・サル・アザラシ・トドにも拡張すべき
- 関係機関(大学・研究機関・行政・学会等)が協働した教育センターを各都道府県(またはブロック)に設置すべき

まとめ

- シカ等の個体数と被害は依然高水準
- 目標水準まで個体数を減らした後は、持続的な管理のための食肉資源利用を推進すべき
- 一般狩猟者・専門的捕獲技術者・野生動物専門官を区別して養成
- DCCを活用し、食肉衛生とアニマルウェルフェアを含めた体系的な訓練を受けた捕獲と管理の担い手を全国の各地域に配置すべき
- その他の動物種にも対応しうる総合的な教育システムを創設すべき